

新潟県SNS教育プログラム

(小中学校編)



令和4年3月

新潟県教育委員会

はじめに

このたび、県教育委員会は、小学校高学年から中学生を対象にした「新潟県 SNS 教育プログラム」（小中学校編）を作成しました。

インターネット環境は日々変化しており、SNS を通じて児童生徒が犯罪等に巻き込まれる事案は増加傾向にあります。また、GIGA スクール構想で整備された 1 人 1 台の学習用端末における学校内外での日常的な端末の活用が今後ますます進み、積極的に活用していくことが求められています。

しかし、スマートフォンやタブレット端末をはじめとする携帯端末の普及が急速に進むにつれ、児童生徒は、インターネットが世界中につながっていたり、たった一つの書き込みや写真・動画の投稿が思わぬトラブルにつながったりするなど十分に理解しないまま使用してしまい、知らず知らずのうちに、インターネット上に不適切な情報を発信してしまったり、トラブルや危険に巻き込まれたりする問題も多くなっています。

このような課題に対応するためには、児童生徒が情報社会の特性についての理解を深め、適正に利用するために的確な判断ができる資質・能力の育成を図ることが重要です。

本プログラムは、情報モラルに関連する事項をすべて網羅するのではなく、情報モラルの判断に必要な要素として日常から留意させたいモラルに重点を置いた内容を精選しています。SNS 上の情報のやり取りやトラブル事例などを通して、インターネット社会の特性を理解させるとともに、相手を思いやる心、規範意識などを繰り返し指導することで、いじめなどの問題行動の未然防止につなげる学習指導例を示しました。各学校においては、本プログラムを有効に活用していただき、児童生徒が社会の一員としてインターネットを適切に活用できる力と態度を育成していただければ幸いです。

令和 4 年 3 月

いじめ対策等検討会議

新潟県教育委員会

目次

新潟県SNS教育プログラム(小中学校編)における目標と構成	1
新潟県SNS教育プログラム(小中学校編)を実施するにあたって	2
レッスン1 学習指導案	3
ワークシート	7
レッスン2 学習指導案	9
ワークシート	12
レッスン3 学習指導案	14
ワークシート	18
レッスン4 学習指導案	20
ワークシート	23
資料_インターネット利用に関する実態アンケート例	25
児童生徒の主体的な取組による啓発活動例	28
保護者・地域等に向けた啓発活動	29
情報モラルの授業で使用できる教材	30

新潟県SNS教育プログラム(小中学校編)における目標

- ① インターネットやSNSの問題について自分のこととして考えたり話し合ったりする活動をとおして、「相手の立場を考える」「先のことを考える」力を身に付ける。
- ② インターネットの特性や仕組みを理解し、児童生徒が自身でインターネットやSNS等に潜むトラブルにつながるリスクに気付き、トラブルを回避する力を身に付ける。
- ③ 安全に活用するためのルールやマナーを守り、適正に行動する態度を身に付ける。

◇新潟県SNS教育プログラムの構成

レッスン1 適切なコミュニケーションを考える

- ・ 同じ言葉でも、人によって感じ方が違う言葉があることに気付く。
- ・ 自分と他者との考え方や感じ方には違いがあることに気付き、その違いを踏まえたコミュニケーションが大切であることを理解する。

レッスン2 SNSのコミュニケーションを考える

- ・ SNSでのコミュニケーションを行う際に生じる相手との誤解や認識の違いに気付き、受け取る側の気持ちに配慮したコミュニケーションの在り方について理解を深める。
- ・ 相手の気持ちを考え、思いやりをもってやり取りしようとする態度を養う。

レッスン3 写真や動画の投稿について考える

- ・ 人によって感じ方や考え方が異なることを理解する。
- ・ 個人の権利を尊重し、インターネット上に情報を発信する際の責任について理解する。

レッスン4 インターネット上の安全なやり取りを考える

- ・ インターネット上の情報は、すべて正しいもの（本当のこと）とは限らない「あやしき」があることを理解する。
- ・ 個人情報を教えることやインターネットの向こうにいる知らない相手と交流する場合の危険性を理解させ、安全にインターネットを利用しようとする態度を身に付ける。

「ルールやマナーを考えよう」
ネット社会でどのような行動をとるか考える

教職員の理解促進

保護者との連携

SNSトラブル時の
マニュアル化

新潟県SNS教育プログラム(小中学校編)を実施するにあたって

1 対象となる児童生徒の実態を把握

教材の選択に当たっては、児童生徒の実態を把握しておくことが大切です。児童の実態について職員間で情報交換を進める中で課題を共有することや、教材や指導方法の検討を行うことを通して、教員間の意識を共通にすることができ、指導の効果を高めることにつながります。

(☞p26 インターネットの利用に関するアンケート例を参考に)

2 指導を行う教科等の検討

学習指導要領総則においても、情報モラルは、すべての教科領域をとおして指導することが明記されています。そのため、プログラムの内容を指導できる学年・教科等については、児童生徒の実態や学校の課題等に合わせ、検討して決定してください。

【教科等の例】 特別の教科道徳、特別活動、総合的な学習の時間、国語、技術・家庭科

3 実際の指導

実際のコミュニケーションにおいてはトラブルがつきものであり、その対応には1つの答えがあるわけではないことを踏まえ、児童生徒自身に問題点や解決方法を考えさせ、児童生徒間で最適解を求めるなどの話し合いを中心に授業を行う「気づきを促す」場面を取り入れた学習活動となっています。レッスンの実施にあたっては、「指導例」を参考に、各校・各学級の児童生徒の実態に合わせて工夫して実施してください。

4 評価

情報モラルは、人の心に関する学習内容を含んでいます。情報モラル教育の成果は、学習を行った児童生徒が実際に現実の課題と向き合ったときに、正しい判断と行動ができるかどうかにかかってきます。評価は、児童生徒の発言やワークシートなどに書かれた内容で行い、すべての児童生徒を評価できる方法の工夫が大切です。

5 その他

本プログラムでは、日々進化するインターネットやSNSの実態についての専門的な知識は扱わないこととしています。それらを補うためには専門家等による講演等を利用して補ってください。また、実施を計画するにあたっては、年間指導計画の中での位置付けをよく考え、効果を高めるように工夫することも必要です。

SNS教育プログラム レッスン1 学習指導案

1 単元名 適切なコミュニケーションを考える

2 本時のねらい

- (1) 同じ言葉でも、人によって感じ方が違う言葉があることに気付く。
- (2) 自分と他者との考え方や感じ方には違いがあることに気付く、その違いを踏まえたコミュニケーションが大切であることを理解する。

3 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点
導入	<p>○アイスブレイク（グループ活動による）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">「夜遅い時間」といえば何時からですか？</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・自分にとっての遅い時間をカードに書く。 ・グループで一斉にカードを出して見て、気づいた事を話し合う。 ・自分と他者との時間の捉え方に違い(ズレ)があることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感じ方は人によって違い、正解があるわけではないことを伝え、本時の課題につなげる。
展開	<p><ワーク1></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">発問1：友だちに言われていやな言葉、うれしい言葉はどれですか？</p> </div> <p>○5つの言葉を言われて「いやな言葉」か、「うれしい言葉」に分類する。</p> <p>その中で、一番いやな言葉、うれしい言葉を選び、その理由をワークシートに記入する。</p> <p>○グループで、①～⑤のカードを選んだ理由を出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見交流することで、自分と他人には「感じ方の違い」があることに気付く。 <p>○ロールプレイ（ペア活動）</p> <p>【例】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>①友達と今日ゲームをすることになりました。 その時「宿題あるからゲームはしない」と言う 「まじめだね」と言われました。</p> <p>②友達が学校を休んだので、授業のノートを見せることになりました。そのノートを見た友達が、 「まじめだね」と言われました。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・5枚のカードを配付する。 ①「まじめだね」 ②「おとなしいね」 ③「一生懸命だね」 ④「個性的だね」 ⑤「マイペースだね」 ・作業がすすまない児童生徒には、言われる相手を誰かひとりイメージするよう助言する。 ・自分が「いやではない」と思うことが、相手にとっては、「いやなこと」である場合があるなど、理由とともに違いを認識させる。 ・場面設定をして、実際に演じることで考えを深めさせる。 (指示例) ①冷たいように言ってみよう ②褒めるように言ってみよう ・1つの表現には、「誰から言われたか」「どのような場面や状況か」「声のトーン」などによって、2通り（ポジティブ・ネガティブ）の意味があることに気付かせる。

<p>○気づいた事をワークシートに記入する。</p> <p>○同じ言葉であっても、相手との感じ方の違いによって、いろいろな意味にとれることを理解する。</p>	<p>(例)「まじめだね」 → ○勉強熱心、●面白くない</p> <p>・感じ方に違いがあることは、いい意味で言ったはずなのに、悪い意味でとらえられて、悪口になってしまうことがあることを理解させる。</p>
<p>感じ方の「違い」を意識して、適切なコミュニケーションについて考えよう。</p>	
<p><ワーク2> 【事例】 ○事例について、トラブルの原因を考える。</p>	<p>・文字だけの表現で気持ちを伝えるために、アプリケーションのトーク画面で考えを深める。</p>
<p>発問2：このやりとりで、問題だと思ったところがありますか。</p>	
<p>○なぜ、誤解が生じたのか理由を考える。文字だけの場合を見たときの感じ方（受け取ったとき）の違いを考える。</p> <p>○文字だけのコミュニケーションと対面での会話の違いは何か、ワークシートに記入する。</p> <p>○文字だけのコミュニケーションでは、自分が伝えたいことが正確に伝わらなかったり、違う意味で受け取られる（誤解）ことがあることに気づく。</p>	<p>・実生活の「対面のコミュニケーション（相手の顔が見える）」を想像させ、「ネット上の文字だけのコミュニケーション（相手の顔が見えない）」との違いについて考えるように助言する。</p> <p>・短文により、1つの表現に2通りの意味があることに気付かせる。</p> <p>・会って話すと（相手の顔が見える）伝わるが、文字だけのやりとり（相手の顔が見えない）では意図が伝わりにくく、誤解が生じる可能性があることを理解させる。</p> <p>・対面でのコミュニケーションは、言葉、身振り手振り、声色、目つき、などを使って感情を伝える大切な要素があることを理解させる。</p> <div data-bbox="890 1809 1439 1989" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【参考】メラビアンの法則</p> <p>👁️ 視覚情報（しぐさ・表情・服装） 55%</p> <p>👂 聴覚情報（声の質・大きさ・速さ・口調） 38%</p> <p>🗨️ 言語情報（言葉の内容・意味） 7%</p> </div>

	<p style="text-align: center;">発問4：自分の気持ちを正しく伝えるには、どのようなことに注意してコミュニケーションを取るようにしたらよいでしょうか。</p> <p>○相手に自分の気持ちを正確に伝えるためにはどのようなことに注意すればよいか、トラブルの回避策についてグループで考える。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>相手の気持ちを考える <input type="checkbox"/>自分がいわれたらどう思うか考える <input type="checkbox"/>わかりやすい表現にする <input type="checkbox"/>実際に会って説明する <input type="checkbox"/>発信する前に読み返しチェックする <input type="checkbox"/>誤解されにくい言葉を選んで伝える <p>○相手の気持ち(受け取った人がどのような気持ちになるか)をよく考え、相手の立場に立って(相手を思いやって)表現することが大切であることを理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分ならどうするかを考えるように促す。 また、受け取る相手の気持ち(傷付けない、誤解を与えないコミュニケーション)を考えて話し合うように助言する。 ・丁寧で分かりやすい表現を心がけることを確認する。 ・相手を思いやることが重要であることを確認する。
<p>まとめ</p>	<p>○本時の学習を振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションをとるときに大切にすること(心がけること)をワークシートにまとめる。 <p>○学級全体で共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相手を思いやる気持ちを持つことが大切であることを理解させ、今後の自分の目標として考えさせる。 ・本時の学習を実生活に生かすように助言する。

4 評価

十分満足できると判断される状況

自分の考えや気持ちを伝えるための適切なコミュニケーションについて、相手の気持ち、相手の立場に立って考えることができる。

努力を要する状況への手立て

他人の意見を聞くことにより、それぞれの立場によって、考え方や感じ方が異なることを理解させる。

5 教材

カード教材 出典：一般財団法人 LINE みらい財団 情報モラル教育教材「SNSノート」
<https://linecorp.com/ja/csr/newslist/ja/2018/190>

6 実践するにあたって

(1) 概要

- ・全4回のプログラムの1回目であり、自分と他者との考え方や感じ方には違いがあることに気付かせ、コミュニケーションの難しさや望ましいあり方について考えさせることを主眼としている。

- ・題材だけでなく、ロールプレイやグループでの活動そのものが、望ましいコミュニケーションの在り方を模索させるという本時のねらいと直結している。

(2) 指導の方向

- ・学校生活の中でも、気軽な気持ちで人が傷つくような発言をしたり、気持ちを表現したりできずに児童生徒同士がトラブルになることがある。同じような内容の文面でも相手への伝わり方、受け取り方が異なることに気付かせることで、友達との関わりについて振り返る機会とし、日常生活においても伝え方に気を付けようとする態度を養いたい。

(3) 工夫すると良い点

- ・相手が発する言葉だけでなく表情や態度から、相手の気持ちを察しながらコミュニケーションを図っている。これがインターネット上での文字のみのコミュニケーションになった場合、対面の時と比べて、相手の状況を判断する情報が乏しく、相手の意図や状況を理解しづらかったり、誤解をしてしまったりしてトラブルが生じることが考えられることを理解させるとよい。

【参考】メラビアンの法則・・・感情や態度について矛盾したメッセージが発せられたとき、人の受けとめ方に及ぼす影響の大きさについての実験結果。話の内容などの言語情報が7%、口調や話の早さなどの聴覚情報が38%、見た目などの視覚情報が55%の割合であった。

- ・カード教材は生徒を引き付けるのに有効である。しかし、児童生徒人数分のカードを印刷するには周到な準備が必要である。

【ワーク1】

◆ あなたが、友だちに言われていやだと感じる言葉、うれしいと感じる言葉を1つ選んでみましょう

いやな言葉	うれしい言葉
選んだ理由を書いてみましょう。	選んだ理由を書いてみましょう。



他の人の考えを聞いて、気付いたことを書きましょう。

【ワーク2】

◆ 感じ方の「違い」を意識して、適切なコミュニケーションについて考えよう



このやりとりで問題だと思ったところはどこにありますか。

ネット上の文字だけのコミュニケーションと、対面でのコミュニケーションをくらべてどんな違いがあるでしょうか。

自分の気持ちを正しく伝えるためには、どのようなことに注意したらいいと考えますか。

◆ これから、コミュニケーションをとるときに大切にすることを3つ書きましょう

-
-
-

レッスン1 適切なコミュニケーションを考える

いやな言葉

うれしい言葉

SNS教育プログラム レッスン2 学習指導案

1 単元名 SNSのコミュニケーションを考える

2 本時のねらい

- (1) SNSでのコミュニケーションを行う際に生じる相手との誤解や認識の違いに気付き、受け取る側の気持ちに配慮したコミュニケーションの在り方について理解を深める。
- (2) 相手の気持ちを考え、思いやりをもってやり取りしようとする態度を養う。

3 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点
導入	○児童生徒のコミュニケーションツール等の利用状況について振り返る	(例) 「昨日、インターネット又はSNSを利用した人」 「どのようなアプリケーションを利用したか」を聞き取るなど、学級で、挙手させて利用状況を共有する。 (事前に実態把握アンケートを実施している場合は、その結果を共有してもよい) ・コミュニケーションツールは便利な点もあるが、気をつけなければならない点もあることを押さえ、本時の課題につなげる。
	SNSのコミュニケーションについて考えよう。	
展開	【事例】 ワークシートの事例を読む。	
	発問1：D子さんとE美さんの気持ちを考えてみよう。	
	○SNSでのやり取りを見て、まずは個人で考え、ワークシートに記入する。その後グループで共有する。	・誤解が生じたことにより、お互いにつらい気持ち(不安やストレス)を感じていることを理解させる。 ・お互いの気持ちの相違に気付かせる。 (文字だけで情報を伝えるには、どんなに頑張っても伝えられる感情には限界があることに触れる。)
	発問2：どうして気持ちが伝わらなかったのか、理由を考えよう。	
	○なぜ誤解が生じたかを考える。 お互いにどのようなことを思ったのか、どうして誤解したのかをワークシートに記入した後、グループで意見を出し合う。	・相手の気持ちや思いを自分との関わりで考えさせる。
	○SNS上のやりとりでは、テンポが速いことに加え、文字だけの短い文で、文字だけの会話になるため、誤解や感じ方の違い	・ネット上で、文字によるコミュニケーションの特徴について確認する。

	(ズレ)が生じやすいことを再確認する。	<p>【例示】</p> <p>テンポが速い 短文 顔が見えないため、つい感情をぶつけてしまう</p>
<p>発問3：このあと、どんなトラブルになるか予想してみよう。</p>		
	<p>○SNSでのやり取りを見て、まずは個人で考え、その後グループでその後の展開を予想する。</p> <p>・ネット上のトラブルは、現実の世界での人間関係トラブルに通じていることを理解する。</p>	<p>・感じ方の違いに気付かないままコミュニケーションを続けることが、トラブルにつながることに気付かせる。</p> <p>・誤解を生じさせるような表現や相手の感情を害するような表現により実際の学校生活において、人間関係のトラブルに発展していくこともあることを理解させる。</p>
<p>発問4： どのようなメッセージを送ればトラブルにならなかったのか考えてみよう。</p>		
	<p>○どうしたら誤解が生じなかったか、D子さん、E美さんの意図を確認しながら、トラブルにならないメッセージのやり取りについて考え、ワークシートに記入する。</p> <p>○グループで話し合い、他の人の意見を聞いて、気付いたことをワークシートに記入する。</p> <p>○意見を共有する。</p> <p>・コミュニケーションの在り方について、話し合いながら、最適解を検討する。</p> <p>○相手とトラブルになってしまったときに、それ以上トラブルが大きくなるようにするために、仲直り（よりよい人間関係）を目指してできることは何かを考える。</p>	<p>・実生活の「対面のコミュニケーション」に置き換えて考えるよう助言する。</p> <p>・相手の気持ちを考えたコミュニケーションについて自分なりにまとめることができるように支援する。</p> <p>・相手の気持ち(受け取った人がどのような気持ちになるか)をよく考え、相手の立場に立って表現することが大切であることを理解させる。</p> <p>・情報のやりとりの中で、誤解が生じないように工夫しなければならないことを確認する。</p> <p>・ネット上でのトラブルの関係修復の方法について問いをなげかけ考えさせる。 (例) どちらの考えが自分に近いものですか? ①SNSのメッセージで「ごめんね」と伝えて謝る ②直接会って話す</p> <p>・解決しようとしても、さらに誤解が生じて関係が悪くなることもある。自分だけでは解決しにくい状況になった場合に、身近な大人に相談することも大切であることを理解させる。</p>
まとめ	<p>○本時の学習を振り返る</p> <p>・コミュニケーションをとるときに、これから自分が気をつけることをまとめる。</p>	<p>・ネット上のコミュニケーションの特性を意識するように、考えをまとめる視点を示す。</p>

		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ①誤解を与えないために気をつけること ②テンポが速い会話だから気をつけること ③イライラした感情になったときに気をつけること </div> <ul style="list-style-type: none"> ・お互いに相手を思いやることが重要であることを確認する。 ・本時の学習を実生活に生かすように助言する。 <p>※学習用端末を使用したトラブルの発生も考えられる。安全・安心に端末を使用できるよう、授業の振り返りの場面で、意識付けを行うとよい。</p>
--	--	---

4 評価

十分満足できると判断される状況

相手の立場を考え、適切なコミュニケーションの取り方について判断することができる。

努力を要する状況への手立て

他者の意見を聞くことにより、それぞれの立場によって、考え方や感じ方が異なることを理解させる。

5 実践するにあたって

(1) 概要

- ・ SNS 上でのトラブル場面を事例として取り上げ、相手が見えない文字だけのコミュニケーションの陥りやすい特徴を知り、衝動的な感情をコントロールすることの必要性を理解させるとともに、SNS のやり取りの疑似体験を通して、相手の思いを受け止めながら自分の思いや考えを伝える望ましいコミュニケーションのあり方について考えを深めさせるものである。

(2) 指導の方向

- ・ 心のすれ違いに着目させながら、お互いにつらい気持ち（不安やストレス）を感じていることを全体で共通認識した上で、非対面のコミュニケーションでは、対面の時と比べ、相手の状況を判断する情報が乏しく、相手の意図や状況を理解しづらく、トラブルが生じやすいことを再確認させたい。
- ・ メッセージを送るときには、相手の立場で読み直して正しく伝わるか確かめてから送ること。また、メッセージを受け取ったときは、相手が何を言いたいのか、相手の気持ちになって考えることも大切であることについて実感させたい。

(3) 工夫するとよい点

- ・ 事例のストーリーは、学習用に典型化されているが、実際に起きがちな事例でもある。児童生徒一人一人が自分のこととして考えることができる反面、事例の登場人物への感情的な批判に終始しないよう、グループ内での議論では教員が必要に応じて助言を与えるとよい。
- ・ 発展例として、1対1のやり取りではなく、グループ（複数）でのやり取りだった場合、第三者として、どのような対応ができるかを考えさせる発問をいれてもよい。

年 組 名 前 _____

D子さんはE美さんとコミュニケーションアプリを使って、やりとりをしました。
 しかし、トラブルに発展してしまいました。
 どうしてこのようなことが起こったのでしょうか。

D子さん：「今すぐ落ち込んでるんだ」
 E美さん：「大丈夫？明日話さくね」
 D子さん：「面倒ならいいよ」
 E美さん：「え？なに？話さくよ？」
 D子さん：「もういい！もう話さない！」
 E美さん：「は？まじ意味わかんないんだけど」

D子
さん



E美
さん

◆ D子さんとE美さんの気持ちを考えてみよう

D子さんの気持ち	E美さんの気持ち



どうして気持ちが伝わらなかったのか、理由を考えよう。



このあと、どんなトラブルになると思いますか？

◆ どのようなメッセージを送れば、トラブルにならなかったのかを考えてみよう。

D子さん

今、すごく落ち込んでるんだ

E美さん

◆ ネット上の文字だけのコミュニケーションの特性を理解して、これからコミュニケーションをとるときに気をつけることを、まとめよう

実際の生活に活かしたいこと

SNS教育プログラム レッスン3 学習指導案

1 単元名 写真や動画の投稿について考えよう

2 本時のねらい

- (1) 人によって感じ方や考え方が異なることを理解する。
- (2) 個人の権利を尊重し、インターネット上に情報を発信する際の責任について理解する。

3 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点
導入	<p>○実態把握アンケートの結果から、振り返る。</p>	<p>※事前に実態把握アンケートを実施していない場合は、「SNS上に写真や動画を投稿したことがあるか」などを聞き取り、挙手させて利用状況を共有する。</p>
	<p>インターネット上に写真を投稿するときどのようなことに気をつけるか考えよう。</p>	
展開	<p><ワーク1> <input type="checkbox"/>1 <input type="checkbox"/>2 <input type="checkbox"/>3の画像</p>	
	<p>発問1： この写真をSNSに投稿したときの気持ちを考えてみよう。</p>	
	<p>*投稿する人の立場で考える</p> <p>○撮影した写真をインターネット上に投稿する時の気持ちについて話し合う。</p> <p>(例) <input type="checkbox"/>友だちに見せたいくなる <input type="checkbox"/>家族に見せたいくなる <input type="checkbox"/>たくさんの人に知ってもらいたいくなる <input type="checkbox"/>見る人に喜んでほしい <input type="checkbox"/>すごいと思ってほしい</p>	<p>・面白い写真や人に教えたいくなる（自慢したいくなる）写真ができたときの心理を想像させ、本時の課題につなげる。</p>
	<p>発問2： これらの写真がSNSに投稿されてもいいと思いますか。</p>	
	<p>*投稿された人の立場で考える</p> <p>○<input type="checkbox"/>1 <input type="checkbox"/>2 <input type="checkbox"/>3の画像を見て、SNS上に投稿されてもいいか、悪いかを考え、その理由をワークシートに記入する。</p> <p>○グループで、理由を出し合う。</p> <p>・見る側の受け取り方で見方や思いも異なることを理解する。</p> <p>・SNSに投稿してよい、悪い、の基準が個人によって違うことに気付く。</p>	<p>・「投稿されてよいと思う写真」は、自分と他者では違うことに気付かせる。</p> <p>・ネット上に投稿してよい、悪い、の基準が個人によって違うことを踏まえ、自分の判断でのネット上への情報の発信は、トラブルが起こる可能性があることを理解させる。</p> <p>→自分では気付かないうちに「不適切な写真を公開してしまうかもしれない」という自覚を促す。</p>

<ワーク 2>

*第三者の立場で考える

発問 3 : 写真を SNS に投稿したらトラブルが起きました。どのような問題が起きたか考えてみよう。また、問題が起きないためにできることを考えよう。

○見つけた問題点を書き出す。

(例) □関係ない人が写っている

□よく考えずに写真を送った

□嫌な気持ちになる人のことを考えなかった

□本人の許可を確認せずに投稿した

□嫌だと思ふ写真を撮影した

□写真を加工した

□立ち入り禁止のところに入ってしまった行為に問題がある

□ SNS で公開すると拡散してしまう

□制服で学校名がわかる

□炎上する

○事例の問題点を整理して、トラブルを防ぐためにできることをグループで考える。

(例) 注意すべきだったこと

□自分がされたら嫌な思いをしないか考える

□人を傷つけることになるのではないか考える

□恥ずかしい写真や動画は、撮らない・撮らせない・送らない

□モザイクをかける

○自分が意図していないことが起こりうることに気付く。

・同じ場面で自分ならどうするのかを考えさせるように支援する。

・それぞれの写真のどこに問題があると考えたかを共有させ、発表させる。

・ネット上に公開した情報が、この先どのように扱われるかリスクを想像させる。また、悪用(無断使用、拡散、個人の特定)される可能性があることをその都度、考えて判断することを理解させる。

・投稿された写真は今後 どうなるのか

・写真は回収できるのか

・自分の将来にどのような影響が及ぶのか

【例示】

個人情報流出

⇒ 個人特定、なりすまし、誹謗中傷 など
犯罪やトラブルに巻き込まれる可能性を理解させる。

*留意事項 1

画像 3 においては、前提として、写真の投稿以前にはいけない行為であることをおさえること。

・インターネットの特性や情報の取扱いについて板書して確認する。

(肖像権) : 本人の許可なく、顔や姿を撮影、公表されない権利のこと

(個人情報) : 個人情報とは、個人を特定できる情報のこと。名前、住所、電話番号、学校名、生年月日など

(公開性) : 全世界に公開されている

(記録性) : 一度発信した情報を全て消し去ることはできない。保存されて残る。

(拡散性) : コピー、転送、加工が簡単にできるため、情報が広まる

	<p>○インターネットの特性や他人に与える影響について考え、今後、どのようなことに注意すべきかを理解する。</p> <p>・権利（人格権、肖像権）を守ることは、様々なトラブルから個人を守ることに繋がっていることに気付く。</p>	<p>・意図的に悪意を持って発信された画像等は、大きなトラブルを引き起こし責任問題に発展することを確認する。</p> <p>・友だちが嫌な思いをしないか、傷つかないかをよく考えることが大切であることを理解させる。</p>
<p>まとめ：写真や動画を投稿するときには、どのようなことに注意する必要があると思いますか。</p>		
<p>まとめ</p>	<p>○授業の振り返り</p> <p>・画像① ② ③について、再度、ネット上に投稿することが良いか、悪いかを考えさせる</p> <p>・適切な情報発信やそれに伴うトラブルを回避するための方法についてワークシートにまとめる。</p> <p>・学級で共有する</p>	<p>・情報発信するときには注意することの意見をまとめて板書する。</p> <p>・本時の学習を実生活に生かすように助言する。（レポート作成や作品制作など学習用端末使用して画像を扱う場面を振り返らせるなどするとよい）</p> <p>・インターネットやSNSを利用している中では、被害者にも、加害者にもなり得ることを伝え、困ったことがあれば、自分一人で抱え込まず、大人に相談する大切さを伝える。</p>

4 評価

十分満足できると判断される状況

撮影された画像の正しい扱い方について、それぞれの立場に立って考えることができる。

努力を要する状況への手立て

他人の意見を聞くことにより、それぞれの立場によって、考え方や感じ方が異なることを理解させる。

5 実践するにあたって

(1) 概要

- ・インターネット上に発信された画像等は、見る側の受け取り方で見方や思いも異なることを理解しなければならない。ましてや、意図的に悪意を持って発信された画像等は、大きなトラブルを引き起こし責任問題に発展することも考えられる。誰にでも起こりうるインターネットへの投稿写真の事例を基に、投稿する側、投稿される側、第三者の立場と、さまざまな立場から考察することにより、その危険性をわがこととして実感することにねらいを置いている。なお、本レッスンでは、SNSやインターネットの特性の正しい知識理解を促すため、教員のサポートが大切となる。

(2) 指導の方向

- ・情報を発信した先には見えない相手の存在があることに気付かせ、SNS等の投稿がどのような影響を他者や自分に及ぼすかを知り、投稿する前にもう一度冷静に内容を確認し、適切に判断できる思いやりのある態度を身につけさせたい。

- ・インターネット上に公開した情報の特性を理解させたい。自他の情報の安全な取り扱いと責任について考え、情報をSNS上に投稿する際のルールやマナーを守ることの大切さを理解させたい。

(3) 工夫するとよい点

- ・危険と思われることや児童生徒が抱いた違和感を数多くあげることにより力点を置く。数が多いほど、投稿の可否となる境界に児童生徒が自ら気づきやすくなる。教員は児童生徒が挙げた例を適切に取り上げ、グループでの議論が円滑に進むようにサポートする。
- ・画像3のように犯罪にあたるものがあることにふれ、日常生活でやってはいけない行為と同様にルールやマナーを守ることの大切さについて理解させることが重要である。
- ・学習用端末を使用したトラブルの発生も考えられる。児童生徒が安全・安心に端末を使用できるよう、授業の振り返りの場面で、これまでに学習用端末を使って作成したレポートや作品について、自らの情報の取扱いが適切であったかを振り返らせ、端末やインターネットの特性と個人情報の扱い方を正しく理解しながら使用する意識付けを行うとよい。

年 組 名 前 _____

◆ あなたが、**1**～**3**の写真をSNSに投稿しました。そのときの気持ちを考えてみよう。



<p>①クラスの集合写真</p>	<p>②学校の前で友だちとの写真</p>	<p>③ノリでふざけて撮った写真</p>

◆ これらの写真をネット上に投稿されてもいいと思いますか？
許せるものに○、許せないものには×をつけてみよう

	① クラスの集合写真	②学校の前で友だちとの写真	③ノリでふざけて撮った写真
たくさんの人が見るSNS			
限られた友だちしか見ないSNS			
画面上で人に見せる			
理 由			

- ◆ 写真を投稿したらトラブルが起きました。起こった問題を考えてみよう。
また、写真を投稿する時に問題が起きないためにできることを考えよう。

起こった問題			
問題を防ぐためにできること			

- ◆ ネット上に写真や動画を投稿するとき、どのようなことに注意していくか、まとめよう。

SNS教育プログラム レッスン4 学習指導案

1 単元名 インターネット上の安全なやりとりを考えよう

2 本時のねらい

- (1) インターネット上の情報は、すべて正しいもの（本当のこと）とは限らない「あやしさ」があることを理解する。
- (2) 個人情報を教えることやインターネットの向こうにいる知らない相手と交流する場合の危険性を理解させ、安全にインターネットを利用しようとする態度を身に付ける。

3 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点
導入	○ SNS が便利だと思うのはどんなときか、利用状況について振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ SNS、動画視聴などの利用状況について振り返るようにする。 SNSには、いろいろな人と交流することができる利点がある。
展開	<p>【事例】 ゲームサイトで知り合い、仲良くなった友だちがいます。今度実際に会って話したいという誘いがありました。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>発問1：Fさんは誘いのメッセージがきた時、どんな気持ちになったと思いますか。</p> </div> <p>○ワークシートに自分の考えを記入する。</p> <p>○グループで意見を共有する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>発問2：Fさんが、ネット上で知り合った相手の人に、自分の名前や顔写真を送った理由は何が考えられますか。</p> </div> <p>○なぜ、「ネット上で知り合った人」を信じてしまったのか、その原因を考え、ワークシートに記入する。</p> <p>【原因】 (例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> ゲームをして仲良くなったから信じた <input type="checkbox"/> 優しくしてくれたから大丈夫だと感じた <input type="checkbox"/> 電話番号や名前を教えてくれたから信じた <input type="checkbox"/> 共通の友だちがいるから <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>発問3：あなたがFさんの立場なら、あなたはFさんのように会う約束をしたり、名前や顔写真を送ったりしますか。ワークシートの自分の考えに近いものを選び、理由を考えよう。</p> </div>	<p style="text-align: center;">*送り手側と受けて側で考えさせる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どのような迷いが生じるか考えさせる。 ・ ネットだけの交流では、顔、姿、気持ち、メッセージ、どれも本物かどうか分からないSNSの特性（ネットの向こう側の相手が見えない）を踏まえ、信じてしまう心理を考えさせる。

	<p>○ワークシートに自分の考えに近いものを選び理由を記入する。</p> <p>○グループで意見を共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・迷ったときは、現実の世界に置き換えて考えてみるよう助言する。 ・信用できること＝安全であると言えるかを考えさせ、人は、「自分は大丈夫」「今回は大丈夫」など過小評価して考えがちになる特性があることを理解させる。
<p>発問4：ネット上で知り合った人に自分の個人情報を教えるとどんな危険があるでしょうか。気をつけなければいけないことをまとめよう。</p>		
	<p>○リスクを予測して気付いたことを書き出す。 グループで話し合い、意見を共有する。</p> <p>【危険だと思うこと】 【気をつけること】 (例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> ダイレクトメッセージにはすぐに返信しない <input type="checkbox"/> 知らない人と会う前に家の人に相談する。 <input type="checkbox"/> 相手のことを簡単に信じない <input type="checkbox"/> 相手のSNS上の情報が正しいかどうか考える <input type="checkbox"/> 本名などの個人情報を教えない <input type="checkbox"/> 個人情報を聞かれたり、写真を送って欲しい、会おうと言われてたら変（危険）だと思う <p>・自分が想像している人とは違う場合、どのような危険があるのかについて考える。</p> <p>○動画を視聴する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな考えをもった人がいて、いい人を装った悪い人も存在する。そのため、知らない人とやり取りすることの危険性に気付く。 ・インターネットに公開されている情報の一部には、正しくない情報（嘘）もあるということを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「どのような特徴があったら、あやしいと判断すればよいか」という危険を予測させ、正しい情報と判断するには、どうすればよいか（どこで「危ない」と判断するか）を考えさせる。 ・なりすましの危険性 顔が見えない場合は、自分が想像する人とは違う場合があることに気付かせる。 ・県警のSNSに起因する犯罪被害防止広報動画を視聴させる ・自分自身で、線引きを決めること、ルールを持つことが判断の基準として重要であり、自分の身を守ることとして必要であることを確認する。
<p>まとめ</p>	<p>○授業の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SNSを利用する際、自分がこれから気を付けることをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習を実生活に生かすように助言する。 ・個人情報の意味や大切さについて確認する。 ・インターネットやSNSを利用している中で困ったことや危険を感じたら被害に遭う前に大人に相談する大切さを伝える。

4 評価

十分満足できると判断される状況

ネットの特性や危険性を理解し、適切な行動について考えることができる。

努力を要する状況への手立て

他人の意見を聞くことにより、どのような関わりが危険につながるのか、正しい知識を身につける必要性を理解させる。

5 教材

「YouTube「新潟県警察公式チャンネル」 SNSに起因する犯罪被害防止広報動画
自画撮り送信被害防止（1分20秒）

<https://www.youtube.com/watch?app=desktop&v=ddh92DJwKY8&feature=youtu.be>

SNSに起因する性犯罪等の被害防止（1分11秒）

https://www.youtube.com/watch?app=desktop&v=HGcn7p_MlCg&feature=youtu.be

6 実践するにあたって

(1) 概要

- ・ 児童生徒は、大人が思っている以上に友だちやインターネット等から多くの情報を得ている。好奇心の強い年代であり、さほど抵抗もなく個人情報が見つかる内容を書き込んでしまうことから、SNSでのコミュニケーションのやり取りにおいて、面識のない人を信用してしまう、陥りやすい心理状態を自分ごととして考えさせながら、個人情報を知らせることで起こりうる不利益や被害があることを理解させ、情報の信頼性や信憑性を判断し、リスクを回避する行動に結びつくよう意識付けるものである。

(2) 指導の方向

- ・ 面識のない人物とのSNSでのやり取りを経験している児童生徒もいることから、個人情報を知らせることで起こりうる危険性について知り、適切な扱い方について理解させたい。また、SNSでは様々な情報を得られる状況にあるが、それらの情報の真偽について正しい判断が求められる。自分の振る舞い方次第でSNSトラブルを予防、回避することができることを理解させ、自分がその立場に立ったときに慎重に判断することができるよう情報モラルの意識を向上させたい。

(3) 工夫すると良い点

- ・ 教員は児童生徒が挙げた例を適切に取り上げ、グループでの議論が円滑に進むようにサポートする。
- ・ リスクを予測させた後、インターネットで知り合った人は、なりすましであり、大人であったことを示し、自分が想像している人とは違う場合、どのような危険があるのかについて考えるよう促す。
- ・ 「危険性くらいわかっている」という児童生徒の反応も予想されるが、誰もが陥る可能性がある「つい」「これくらいは」という心理状態に陥ることを課題としてとらえていこうという流れで取り組ませる。
- ・ 実際にあった事件の例を示すことにより、インターネット上での安易なやりとりが重大事件に発展する危険性について理解を深めることにつながる。その際は、こわがらせることだけに偏ることがないように適切に取り上げるよう配慮する。

年 組 名前

Fさんは、オンラインゲームをしています。
チャットで仲良くなった人が、隣の学校の同じ学年の人だと言ってきました。

今度、会いたいと言われたので、次の日曜日に会う約束をしました。そして、お互いに名前を伝え、顔写真を交換することにします。

この後、何が起こるでしょうか？



Fさん

- ◆ Fさんは、誘いのメッセージがきた時、どんな気持ちになったと思いますか。

どんな気持ちになるかを書いてみよう

- ◆ Fさんが、ネット上で知り合った相手の人に、自分の名前や顔写真を送った理由は何が考えられますか。

- ◆ あなたがFさんなら、ネット上で知り合った人に自分の名前や顔写真を送ってもいいと思いますか。あなたの考えに近いものに○をつけて、その理由も書きましょう。

- あなたが、自分の写真や動画を送って欲しいと言われたらどうすると思いますか。

- () ① 送る
- () ② たぶん送るかもしれない
- () ③ 何度も頼まれたら送るかもしれない
- () ④ たぶん送らない
- () ⑤ 送らない

● あなたが「送ろう」(または「送るかもしれない」)と思う理由は何ですか

- () ①その相手にしか見せないから、見せてもいいと思う
- () ②メッセージ等のやり取りをして仲良くなった相手だから、見せてもいいと思う
- () ③(見せたくはないが)断るとその相手との関係が悪くなると困るから
- () ④(見せたくはないが)何度も頼まれたら断りきれないと思うから

考えを書いてみよう

● あなたならネット上で知り合った人に会いに行ってもいいと思いますか。

- () ①会いに行く 理由:
- () ②会いに行かない 理由:
- () ③友だちと一緒にいく 理由:
- () ④おうちの人に相談する 理由:

どのような人であれば、ネット上で知り合った人と実際に会ってもいいと思いますか？

◆ ネット上で、知り合った人に自分の個人情報を教えるとどんな危険があるでしょうか。気をつけなければいけないことをまとめよう。

【危険だと思うこと】	【気をつけること】

授業の感想

<資料>

インターネットの利用に関するアンケート

インターネットやスマートフォン等の利用状況を調べるためのアンケートです。ご協力をお願いします。

- 学年 () 年
○性別 ①男 ②女

1. あなたは自分専用のスマートフォンやタブレットをもちますか。

- ①持っていない ②スマートフォン ③タブレット端末 ④両方持っている

2. インターネットを使うとき、利用する機器をすべて選んでください。

- ①パソコン ②スマートフォン ③ゲーム機(Switch など) ④テレビ
⑤携帯音楽プレーヤー(iPod touch など) ⑥タブレット端末 ⑦利用していない

ここから下は2.で「1~6」と答えた人だけ答えてください。

3. 平日、1日どれくらいの時間(2.の1~6の機器)インターネットを利用していますか。

「テレビでのYouTube視聴」「テレビでのオンラインゲーム」は「インターネット」に含めてください

- ①1時間以内 ②2時間以内 ③3時間以内 ④4時以内 ⑤5時間以内 ⑥5時間以上

4. 休日、1日どれくらいの時間(2.の1~6の機器)インターネットを利用していますか。

「テレビでのYouTube視聴」「テレビでのオンラインゲーム」は「インターネット」に含めてください

- ①1時間以内 ②2時間以内 ③3時間以内 ④4時間以内 ⑤5時間以内 ⑥5時間以上

5. インターネットを使って何をしていますか。あてはまるものすべてを選んでください。(いくつでも)

- ①動画視聴 ②ゲーム ③コミュニケーション(メールやソーシャルメディア等)
④音楽視聴 ⑤ショッピング ⑥勉強・学習 ⑦ニュースをみる ⑧情報検索
⑨その他(具体的に)

6. よく使うSNSはどれですか。使っているものすべてを選んでください。(いくつでも)

- ①LINE ②Twitter ③Instagram ④TikTok ⑤Facebook
⑥その他(具体的に) ⑦何も使っていない

7. SNSを利用する目的は何ですか。あてはまるものすべてを選んでください。(いくつでも)

- ①友だちとのコミュニケーションのため ②知りたいことについて情報を調べるため
③新たな交流関係を広げるため ④自分の情報や作品の発表のため ⑤ひまつぶしのため
⑥その他(具体的に)

8. インターネットを使っていて、以下のようなことがありますか。あてはまるものすべてを選んでください。(いくつでも)

- ①悪口やいやがらせのメッセージやメールを送られたり、書き込みをされたことがある
②悪口やいやがらせのメッセージやメールを送ったり、書き込みをしたことがある
③他人が見ることのできるSNS等で、自分の情報(名前や写真、メールアドレス、IDなど)を書き込んだことがある
④他人が見ることのできるSNS等で、他人の情報(名前や写真、メールアドレス、IDなど)を書き込んだことがある
⑤親に話しにくいサイト(アダルトサイト、犯罪行為やその方法を掲載しているサイト等)を見たことがある

- ⑥ゲームやアプリで、お金を使いすぎたことがある
- ⑦自分が知らない人や、お店などからメッセージやメールが来たことがある
- ⑧迷惑メッセージやメールが送られてきたことがある
- ⑨インターネットで知り合った人とメッセージやメールなどのやりとりをしたことがある
- ⑩インターネットで知り合った同性と会ったことがある
- ⑪インターネットで知り合った異性と会ったことがある
- ⑫インターネットで知り合った人との人間関係で悩んだことがある
- ⑬インターネットにのめりこんで勉強に集中できなかつたり、睡眠不足になったりしたことがある
- ⑭その他に困ったことがある（具体的に _____）
- ⑮あてはまるものはない

9. 対面で会話すること、インターネットのコミュニケーションでは、どちらの方が苦手ですか。

- ①対面での会話 ②インターネットのコミュニケーション

10. Twitter を使っている人に聞きます。アカウントをいくつ作っていますか。

- ①1 個 ②2~3 個 ③4~5 個 ④6~10 個 ⑤11 個以上

11. Instagram を使っている人に聞きます。アカウントをいくつ作っていますか。

- ①1 個 ②2~3 個 ③4~5 個 ④6~10 個 ⑤11 個以上

12. これまでにどのような写真や動画を SNS などに投稿したことがありますか。あてはまるものすべてを選んでください。（いくつでも）

- ①自撮り画像 ②友達と一緒に映っている画像 ③友達だけの画像 ④食べ物
- ⑤風景 ⑥スクリーンショット(スマートフォンなどの画面の画像)
- ⑦その他（ _____ ） ⑧投稿したことはない

13. 友だちの写真や動画を撮ることに抵抗はありますか。

- ①全くない ②あまりない ③どちらともいえない ④少しある ⑤すごくある

14. 自分の写真や動画を撮られることは嫌な感じがしますか。

- ①全くない ②あまりない ③どちらともいえない ④少しある ⑤すごくある

15. 自分の写真や動画を SNS に投稿することに抵抗はありますか。

- ①全くない ②あまりない ③どちらともいえない ④少しある ⑤すごくある

16. 自分の写真や動画を SNS に投稿されることは嫌な感じがしますか。

- ①全くない ②あまりない ③どちらともいえない ④少しある ⑤すごくある

17. 友だちの写真や動画を SNS に投稿することに抵抗はありますか。

- ①全くない ②あまりない ③どちらともいえない ④少しある ⑤すごくある

18. 知らない人が映り込んでいる写真や動画を SNS に投稿することに抵抗はありますか。

- ①全くない ②あまりない ③どちらともいえない ④少しある ⑤すごくある

19. ネット上では匿名で通すことは可能だと思いますか。

- ①できる ②できない ③わからない

20. SNS に投稿した内容は完全に消すことができると思いますか。

- ①できる ②できない ③わからない

21. あなたはフィルタリングを設定していますか。

- ①している ②していない ③わからない

22. あなたの家ではインターネットの使い方のルールや約束を決めていますか。

①決めている ②特にルールはない ③わからない

→「①決めている」と答えた人に聞きます。あなたは、その使い方のルールを守っていますか。

①守っている ②たまにルールを守らない時がある ③守っていない

たくさんの質問に答えていただき、ご協力ありがとうございました

児童生徒の主体的な取組による啓発活動例

情報モラルに関する知識や技能について指導することに加えて、児童生徒が自ら考え、課題意識を持って行動する態度を育むことも重要です。

ここでは、児童生徒の主体的な取組による情報モラルの啓発活動について、活動例を掲載します。参考にしてください。

(1) 児童会・生徒会や委員会による啓発活動例

<小学校>

取組	活動主体	概要
体験から学ぶ	児童会	学校ホームページを作成する活動により、適切な表現や写真の掲載など、情報発信について児童自らが考え、判断し、理解させる体験を通して、適正に活用する態度を身に付けさせた。情報モラルについて、知識中心の指導に偏重せず、インターネットに触れさせながら、指導をすることで学習効果をねらった。

<中学校>

取組	活動主体	概要
ネット利用に関するルールづくり	生徒会	生徒自身が主体的に話し合い活動を行い、ネットトラブルを自分自身の問題と捉え、自分たちが守るべきルールを策定した。1人では難しいが、みんなで取り組めば実践できる生徒主体のルール運用を展開し、ネットいじめやネットトラブルの防止に向けた生徒の意識の高揚を図った。

(2) 保護者との連携による児童生徒の啓発活動

<中等教育学校>

取組	活動主体	概要
家庭と連携した安全な使い方の啓発活動	学年	夏休み前に、生徒自身のSNS利用に関する「適正に利用するための行動宣言」を考えさせ、保護者面談でその内容を共有し、親子の対話を促進させるとともに、見守りと協力を要請した。冬休み前に振り返りを行った。学期初めや学期末などに意図的・計画的に位置付けることで、トラブルの未然防止に取り組んだ。

(3) 保護者や地域への啓発活動

<小中学校>

取組	活動主体	概要
近隣の学校との連携	教職員 PTA	同一中学校区内の小中学校が連携し、児童生徒を取り巻くネット問題の実態を理解し、情報モラルについて指導する必要性について、講師を招聘して研修を行った。情報モラル教育について、保護者との共通認識を図り、実効的な体制づくりを進めた。

保護者・地域等に向けた啓発活動

情報モラル教育では、学校のみならず家庭や地域とも連携して、児童生徒の「情報モラル」を育むことが必要です。その際、児童生徒に対し、安全・安心に利用するための指導をするだけでなく、保護者や地域の方々など関係者にも理解と協力を得ながら、児童生徒が安全・安心に利用できる環境を整えることが重要となります。

学校と家庭・地域が共通の目標を明確に意識できるように、学校における情報モラル教育への取り組みやSNSに関わるトラブル事例などを「学校だより」「学年・学級だより」等で随時お知らせしたり、実際に情報モラル教育の授業を公開したり、面談等で情報モラル教育について話題にして情報交換を行ったりすることも有効です。

「保護者向け啓発リーフレット」の活用

県教育委員会は、保護者への啓発を目的としたリーフレットを作成しています。保護者に取り組んでもらいたいことを理解しやすいように3項目「インターネットの危険性を知る」「安全に賢く使う力を育てる」「安全な利用環境を整える」に焦点を絞って構成し、インターネットの活用の際に注意すべきポイントがわかるようにまとめています。リーフレットのPDFデータを「新潟県いじめ対策ポータル」に掲載していますので、様々な場面で活用してください。



〔活用例〕

- 新入生保護者説明会での配付、説明
- 保護者面談での配付、説明
- PTA主催の総会での配付、説明
- 保護者向け講演会での配付、説明
- 地区PTA、学年PTA等の保護者懇談会での配付、説明
- PTAの委員会での研修
- 学校Webページへの掲載
- 地域との連携(学校評議員への周知、回覧板等の活用)
- 印刷をしてポスターとして掲示をする。

下記URLに啓発リーフレットのPDFデータが掲載されています。

https://www.ijimetaisaku.pref.niigata.lg.jp/pdf/202103_johomoral_leaflet.pdf

情報モラルの授業で利用できる教材

(1) 新潟県が作成している教材

下記サイト「新潟県いじめ対策ポータル」から教材のダウンロードが可能です。

<https://www.ijimetaisaku.pref.niigata.lg.jp/download/>

- ① 新潟県 SNS 教育プログラム（高等学校編）三訂版
- ② 新潟県 SNS 教育プログラム 絵本教材「デジタルネイティブの君たちへ」
映像教材「デジタルネイティブの君たちへ」
- ③ 教職員向け情報モラル資料「ネットトラブルの理解と対応」
- ④ 保護者向け「情報モラルリーフレット」
- ⑤ 保護者の皆様へ「スマートフォン等のインターネットトラブルからお子様を守るために」（新潟県福祉保健部子ども家庭課）
- ⑥ スマートフォン等使用・推奨ルール
 - ・小学生の保護者向けリーフレット
 - ・中学生の保護者向けリーフレット
- ⑦ SNS に起因する犯罪被害防止広報動画（YouTube「新潟県警察公式チャンネル」）
 - ・自撮り送信被害防止（1分20秒）
 - ・SNS に起因する性犯罪等の被害防止（1分11秒）
 - ・ネットトラブル防止（1分54秒）

(2) 公開されている有用な教材

- ① 情報化社会の新たな問題を考えるための教材（文部科学省）

～安全なインターネットの使い方を考える～

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1416322.html

小学生から中高生を対象にした5つの課題と18の動画教材が利用可能で、動画教材用のモデル指導案、ワークシート、板書例がダウンロードできます。

教材1 [ネットの使い過ぎ] ネットゲームに夢中になると…

教材2 [ネットの使い過ぎ] 身近にひそむネットの使い過ぎ

教材3 [ネット被害] そのページ、確認しなくて大丈夫？

教材4 [ネット被害] ネット詐欺などに巻き込まれないようにするために

教材5 [ネット被害] 軽い気持ちのID交換から…

教材6 [ネット被害] 写真や動画が流出する怖さを知ろう

教材7 [SNS等のトラブル] ひとりよがりの使い方にならないように

教材8 [SNS等のトラブル] 情報の記録性、公開性の重大さ

教材9 [SNS等のトラブル] SNS への書き込みの影響

教材10 [SNS等のトラブル] 軽はずみな SNS への投稿

- 教材 11 [情報セキュリティ] パスワードについて考えよう
- 教材 12 [情報セキュリティ] 大切な情報を守るために
- 教材 13 [適切なコミュニケーション] うまく伝わったかな？
- 教材 14 [適切なコミュニケーション] コミュニケーションの取り方を見直そう
- 教材 15 [ネット被害] SNSを通じた出会いの危険性
- 教材 16 [ネットの使い過ぎ] スマートフォンやタブレットなどの使い過ぎ
- 教材 17 [SNS等のトラブル] スマートフォンやタブレットなどの利用マナー
- 教材 18 [SNS等のトラブル] 著作物を公開するためには

② 「インターネットトラブル事例集（2021年版）」（総務省）

https://www.soumu.go.jp/main_content/000707803.pdf

実際に起きている身近なトラブルが8つのテーマ19事例紹介されています。一斉指導、個別学習や話し合い等の多様な場面で活用できるよう、学習の進め方、解説とアドバイスがわかりやすく構成されています。

③ 2019年版「ネット社会の歩き方 改訂版」（平成31年3月）

一般社団法人日本教育情報化振興会

<http://www2.japet.or.jp/net-walk/>

情報モラル指導にそのまま利用できるプレゼンテーション教材や情報モラル指導を児童・生徒や保護者に対して具体的にどう行うのかを参照できるビデオ教材など、教育指導者用教材 総数78件の学習ユニットが公開掲載され、利用可能です。

④ みんなで考えよう，ケータイ・スマートフォン（※NPO 法人企業教育研究会）

<http://ace-npo.org/info/kangaeyou/kyouzai/kangaeyou4.html>

下記の指導案、投影用資料、配布資料がダウンロードできます。

- 1 学校で考えよう スマホのコミュニケーション
- 2 学校で考えよう動画配信の罠？
- 3 家庭で考えよう スマホトラブルうちの子だけは大丈夫？

⑤ スマホ リアルストーリー（※NHK for School）

<http://www.nhk.or.jp/sougou/sumaho/>

実際にスマホを持った小学生のリアルな体験を伝える番組で、指導案、ワークシートのダウンロードもできます。

⑥ 普及啓発リーフレット集（内閣府）

https://www8.cao.go.jp/youth/kankyoyou/internet_use/leaflet.html

子どもたちが安全・安心にインターネット利用できるように、内閣府をはじめ関係省庁や団体の作成した普及啓発リーフレット等を紹介しています。

**新潟県SNS教育プログラム（小中学校編）
の作成に御協力いただいた皆様**

敬称略、職名は令和4年3月末現在

○ 令和3年度 いじめ対策等検討会議委員

情報教育分野	（敬和学園大学教授）	一戸 信哉（座長）
臨床心理分野	（新潟青陵大学教授）	本間 恵美子
教育心理学分野	（新潟大学教授）	松井 賢二
生徒指導分野	（元新潟産業大学教授）	秋山 正道
保護者代表	（新潟県高等学校PTA連合会）	吉田 金豊
学校関係者	（三条市立一ノ木戸小学校長）	渡邊 芳久
学校関係者	（燕市立燕中学校長）	比後 慎一
学校関係者	（県立村松高等学校長）	須藤 浩
教育行政	（県教育庁義務教育課長）	今井 渉
教育行政	（県教育庁高等学校教育課長）	小川 正樹
教育行政	（県教育庁生徒指導課長）	石黒 浩司

○ 研究協力

令和3年度いじめ対策推進モデル校

上越市立城北中学校

南魚沼市立大和中学校

○ 「新潟県SNS教育プログラム」ワーキングチーム委員

上越教育事務所	指導主事	桑原 正博
中越教育事務所	指導主事	佐藤 典人
下越教育事務所	指導主事	友野 直己